

おわりに

私が外国につながる子どもたちの教育に関心を寄せるようになったのは、以前の勤務校で、教育工学をご専門の赤堀正宜先生に、ペルーの遠隔中学校に関する調査研究に誘っていただいたことがきっかけでした。ペルーの標高4000mを超える高原や、砂漠の果てにポツンと佇む漁村にある遠隔中学校を訪問し、満足な教材教具も整わない中で勉強に励む子どもたちの様子を目の当たりにし、衝撃を受けたことをはっきりと覚えています。その調査の後、今度はこの日本でも毎日の学習に困難を抱える外国につながるのある子どもたちが数多くいることを知り、自分にできることは何かと自問した末に、実際に学習支援に携わるようになりました。

かつて、“made in Japan” と言えば、その製品が日本製であり、同時に日本人が作ったものを意味していたと思います。この言葉は今もなお高品質な製品の代名詞として世の中に通用しているようです。しかし、今日の“made in Japan”の内、日本人だけが作ったものはどれほどなのでしょう。私にはそれを確かめる術がありませんが、恐らくはそのほとんどに外国人あるいは外国につながる人々が関わっているのではないかと考えています。グローバル化の進展とともに、私たちの身の回りにはありとあらゆる外国製品が溢れています。外国製のみならず、日本製の製品であっても、そこに多くの外国人が関わっています。もはや私たちの生活は外国人なしには成り立っていかないのです。かねてより日本社会では多くの職域で外国人が働いています。かれらもまた日本社会を支え、生活しています。それは大人だけではありません。大人に連れてこられたり、呼び寄せられたり、日本で生まれた子どもが日本社会で育っています。かれらもまた、将来の日本社会を構成する重要な存在なのです。だからこそ、私たちの身近にいる外国人が普段どのような生活をしているのか、かれらが人間として真つ当な生活と働き方ができているのか、もっとアンテナを立てておく必要があるのではないかと考えています。

特に学校教育現場に立つ先生方は、子どもたち一人ひとりがどのような背景をもって教室にいるのか、想像してみてください。そして先生方一人ひとりが外国につながる子どもたちにとっては日本社会の窓口であることを強く意識していただきたいと思います。恐らく先生方の教室にいる外国人の子どもはとても大人しく、できるだけ目立たないように過ごしているはずですが、かれらはそもそも大人しい性格、というのではなく、目立つことをして自らの異質性が教室全体に知れ渡ってしまうことを恐れるために、できるだけにひっそりと過ごしているのです。授業中に分からないことが

あっても、かれらはまず手を挙げません。分からなくても「分かりました」と答えます。そうした子どもたちに真っ先に「だいじょうぶ？」と声をかけてあげられるのは、やはり学校の先生しかいないのです。先生方はかれらの一番身近な「大人」なのです。

今回、本書の執筆・編集作業を通じて初めて、私は、外国人そして外国にルーツのある子どもの問題が日本の人口減少社会と密接にかかわっているということを強く意識するようになったとともに、こうした子どもたちの教育問題を検討するうえで、マクロな視野をもって検討することの重要性に改めて気が付かされました。

日本における外国人比率は高くありません。量的にもマイナーな存在です。しかしそうした人々が日本でしっかりと教育を受けられ、将来に対する明るい展望を持てるようにならなければ、大多数の日本人もまた、明るい将来の社会像を描けないのではないのでしょうか。将来確実に人口が減少することが避けられないとすれば、その中でいかに次の社会のあり方を構想するか、そのための知恵が今まさに問われていると思います。本書はそうした議論にいくばくかの貢献ができるものと思っています。

(角替弘規)

謝 辞

本書の作成に当たっては多くの方々にご協力をいただきました。特に外国につながる子どもへの教育支援の実践の場を与えてくださっているNPO 法人教育支援グループ Ed.ベンチャーのみなさん、日本ペルー共生協会 (AJAPE) の高橋悦子さんにはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

(角替弘規)

本書構成の柱である新学習指導要領の特性をご教示戴いた無藤隆先生と授業実践者の姿勢を学ばせていただいた吉田豊香先生に改めて御礼申し上げます。さらに、日本を代表する教育調査の研究者として本書の実証性の確保への貴重なご意見を戴いた武内清先生、プロジェクトの範囲を超えて執筆者を支えて戴いた中央教育研究所の伊藤育夫所長に心から感謝申し上げます。また、本書の母体となる同書名の八洲学園大学講義テキスト作成と講義の機会を与えて戴いた浅井経子先生、事務局の皆さん、そしてテキストでの学びとご自身の経験を重ねたレポートによって新たな視点と課題を示していただいた受講生の皆さんに、御礼と感謝の思いを送らせていただきます。

最後に『変化する社会と生涯学習の課題』に続いて、変更に変更を重ねる原稿の提出を2年間見守って戴いたNSK出版の新藤智さんに感謝申し上げます。

(馬居政幸)

執筆者一覧

【特別寄稿】

谷川 彰英 (たにかわ・あきひで)
筑波大学名誉教授
公益財団法人中央教育研究所理事長

望月 重信 (もちづき・しげのぶ)
明治学院大学名誉教授

【執筆者】(五十音順)

李 明熙 (イ・ミョンヒ)
韓国公州大学校教授
第4章、Column4-1

重森 しおり (しげもり・しおり)
岡山市教育委員会職員
第10章第4節

内村 円香 (うちむら・まどか)
静岡大学馬居研究室卒業生
Column8-1-3

島田 桂吾 (しまだ・けいご)
静岡大学専任講師
第9章第5節

馬居 喜代子 (うまい・きよこ)
馬居教育調査研究所所長
第10章第5節、Column6-1

新村 弘道 (しんむら・ひろみち)
静岡市立竜南小学校教頭
第9章第3節

遠藤 宏美 (えんどう・ひろみ)
宮崎大学准教授
第9章第4節

崔 松姫 (チェ・ソンヒ)
ソウル市立初等学校教員
元静岡大学教育学部教員留学生
Column8-1-4

佐藤 風 (さとう・さやか)
福山市立動物園飼育員
第10章第3節

西本 裕輝 (にしもと・ひろき)
琉球大学教授
第5章、Column5-1

佐本 万理 (さもと・まり)
東京韓国語学校講師
第4章、Column4-3

根岸 康三 (ねぎし・こうぞう)
静岡大学馬居研究室卒業生
Column8-1-2

濱田 純 (はまだ・じゅん)
秋田大学北秋田分校長
第5章、Column5-3

山田 知佳 (やまだ・ちか)
静岡大学馬居研究室修士課程修了
第4章、Column4-4

早川 由貴 (はやかわ・ゆき)
静岡大学馬居研究室卒業生
Column8-1-1

山本 直子 (やまもと・なおこ)
八洲学園大学受講生
Column7-2

藤田 由美子 (ふじた・ゆみこ)
福岡大学教授
第10章第1節

与那嶺 涼子 (よなみね・りょうこ)
外務省総合外交政策局
女性参画推進室
第5章、Column5-2

夫 伯 (フ・ペック)
韓国慶熙大学校教授
第4章、Column4-2

米津 英郎 (よねづ・ひでお)
富士宮市立貴船小学校教頭
第9章第3節

寶來 生志子 (ほうらい・きしこ)
横浜市立池上小学校校長
第9章第2節

渡部 和則 (わたなべ・かずのり)
秋田市立金足西小学校教諭
第5章、第9章第3節、Column5-4

渡辺 恵 (わたなべ・めぐみ)
杏林大学専任講師
第9章第1節

【イラスト】

長野 亨 (ながの・とおる)
エンカレッジ画房
表紙イラスト、図8-11、図8-13、
図8-20、図8-24

【編著者】

馬居 政幸 (うまい・まさゆき)

第1章、第2章、第4章、第5章、第6章、第7章第1節・第2節、第8章、
第9章第3節、Column7-1、Column 8-3-1、Column 8-3-2

静岡大学名誉教授/馬居教育調査研究所主宰・調査研究ディレクター

研究分野：教育と人口減少の社会学 社会科・生活科・総合的学習・生涯学習の教育学

著書：馬居政幸著『変化する社会と生涯学習の課題』NSK出版 2017年

無藤隆解説 馬居政幸・角替弘規制作『無藤隆が徹底解説 学習指導要領改訂のキーワード』明治図書、2017年

馬居政幸著「未来社会につなぐ！現代社会の課題と社会科授業デザイン 1～12」『社会科教育』明治図書 2016年4月号～2017年3月号 連載

馬居政幸・李明熙共著「日韓両国の少子・高齢・人口減少の現状と社会科教育の課題」『社会科教育』第52巻3号 韓国社会科教育研究学会 2013年

馬居政幸・李明熙共著「韓国中・高生の規範意識の特性と韓・日相互理解教育の課題」『韓国日本教育研究』Vol. 14, No. 2, 韓国日本教育学会 2010年

馬居政幸著『少子時代の親子の世界』第三文芸社 1997年

角替 弘規 (つのがえ・ひろき)

第3章、第7章第3節、第9章第6節、第10章第2節

静岡県立大学食品栄養科学部 教授

NPO法人教育支援グループEd.ベンチャー(<http://www.edventure.jp/>) 理事

研究分野：教育社会学、ニューカマー研究、高等教育研究

著書：角替弘規著「国際教室をめぐる資源の編み直し—神奈川県大和市の事例から—」『桐蔭論叢』第20号 桐蔭横浜大学 2009年

角替弘規著「南米にルーツを持つニューカマー二世世代の青年期：ペルーにルーツを持つ女性を中心に」『桐蔭論叢』第34号 桐蔭横浜大学 2016年

角替弘規著「学校における外国にルーツを持つ子どもたちへの対応」、『人口減少問題と学校教育』、公益財団法人中央教育研究所研究報告No.90 2017年

角替弘規著「外国につながる子ども」藤田由美子・谷田川ルミ編著『ダイバーシティ時代の教育の原理—多様性と新たなつながりの地平へ—』第12章 学文社 2018年

(改訂新版) **人口減少時代の家族・学校・地域・社会**

—生涯にわたる学びと教えの新たな可能性を求めて—

馬居政幸・角替弘規 共編著

2019年8月25日 初版第二刷 発行 ISBN 978-4-921102-43-2 C3037

編著者 / 馬居政幸・角替弘規 発行者 / 新藤 智

発行所 / NSK出版 〒177-0051 東京都練馬区関町北3-25-11-102